

Alexandre Gabriel Decamps

アレクサンドル＝ガブリエル・ドゥカン (1803～1860)



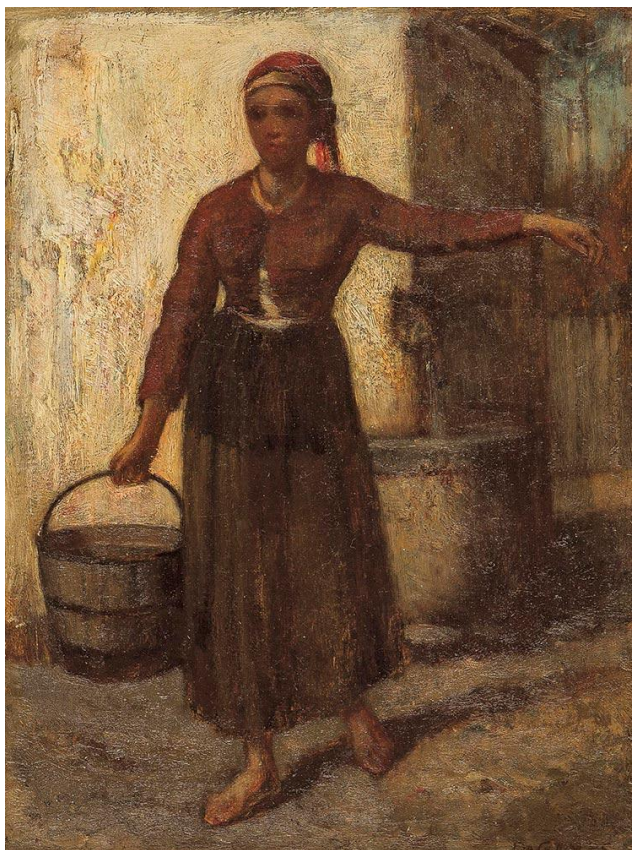
水汲みの女

キャンパス・油彩

31.3×24 cm

Alexandre Gabriel Decamps

アレクサンドル＝ガブリエル・ドゥカン（1803～1860）



作品名 水汲みの女

種類 キャンバスに油彩

サイズ 31.3×24 cm

※ 右下にサインあり

略 歴

- 1803 パリに生まれ、幼少期をピカルディー地方の田舎で過ごす。
- 1818 歴史画家ブショとピュチョルに師事
- 1824 自然の写生を志す
- 1827 サロン初入選
- 1831 オリエンタリズムの画家としてサロンで活躍
- 1839 レジョン・ドヌール勲章を受章する
- 1840 フォンテーヌブローの森を訪れるようになる
- 1848 二月革命以降はサロンから遠ざかり、バルビゾン派の自然主義に関心を示す。シャイイに住んで、コロー、ユエ、ミレー、ルソー、バリーらと親交を結び、フォンテーヌブローの森に入って写生をし、特に狩りの情景を主題とした風景画を多く描いた
- 1855 第1回パリ万博美術館展で、アングルやドラクロワとともに回顧展が開催され、最優秀賞を受賞する。晩年はフォンテーヌブローに住む
- 1860 フォンテーヌブローで狩りの最中に落馬が元で死去

写実主義的な表現によって自然の美しい光景や農民の働く素朴な生活を描写した風景画や動物画、風俗画を描いたドゥカンは、特定の流派からの影響を受けずに自己の画風を確立した。大胆な筆使いと厚塗りの質感表現は、後の世代のモンティセリ、セザンヌ、フィンセント・ファン・ゴッポ(1853-1890)などの画家たちに影響を与えた。